

# 自転車利用実態定点調査報告

平成29年2月  
 (一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成 29 年 1 月 18 日  
 [午前]7:30~8:50

**調査場所** ・ 都立〇〇高校(共学)  
**概要** ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			車種	男女	危険走行の有無								
	歩道	車道	歩道			歩道	車道	歩道	車道	歩道	車道			
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														

調査日時	平成 29 年 1 月 18 日
天気	晴
調査時間	7:30 ~ 8:50

<調査票>

## [コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、70%であり、車道右側走行率は、9%・路側帯走行率は、21%の結果であった。

◎危険運転行為は、車道右側走行(22件)・片手運転(20件)・立ち漕ぎ(15件)・ハンドルに荷物(13件)・過積載(5件)・ギター背負い(3件)の順となっている。

## 【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、車道左側走行率が、7割を占めており、ルール・マナーの遵守率が、かなり高い。

なお、危険運転行為の中では、車道右側走行が、全体(78件)の約28%(22件)/片手運転が26%(20件)を占めており、両者だけで5割を占有していた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、ギター背負いの生徒は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

なお、一部の生徒が校門直前での左右や後方確認をしていた。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数940人)の5割程度である。なお、調査当日は、3年生が受験期間中であり登校していないため、1・2年生のみが対象であった。

校内には、自転車駐輪場が複数整備(総収容台数500台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間は、8時15分までと他校(基本8時30分)より早めにも拘わらず、大半の生徒は、8時10分までに登校していた。

今回、自転車通学用の校門は、正門と西門の2箇所であり、通学生の多い正門にて調査を行った。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、交通安全啓発の一環として、年に1回全校生徒を対象に交通安全教室を実施している他、毎日、通学指導及び交通指導を実施している。



自転車駐輪場(1 学年用)



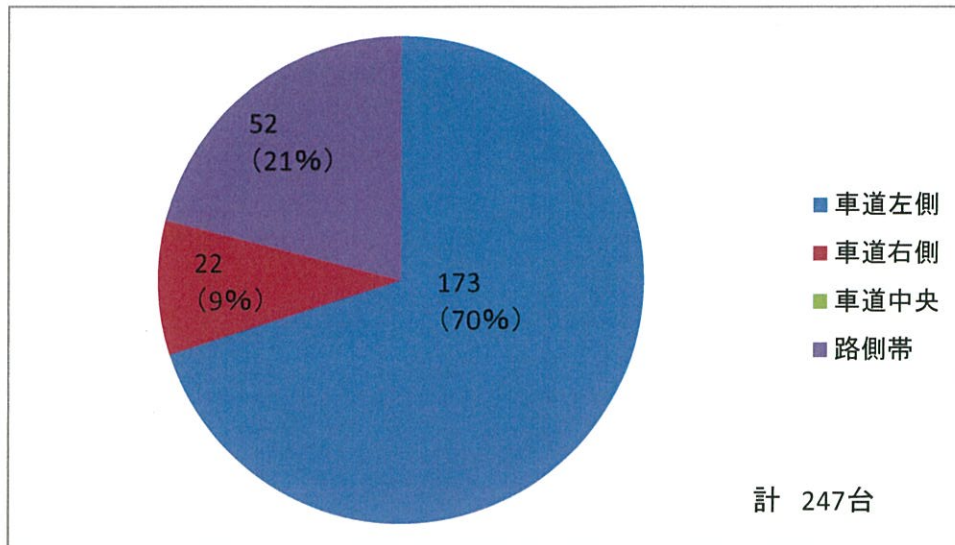
自転車駐輪場(2 学年用)



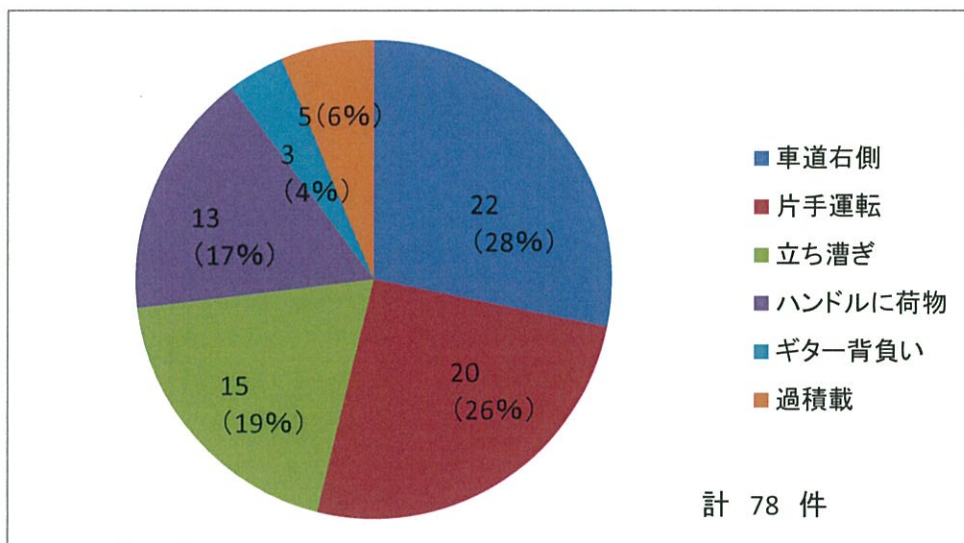
自転車駐輪場(1 学年用)平置き



自転車駐輪場(2 学年用)平置き



走行空間



危険運転行為